無線LAN高速認証技術の概要

- スマートフォン等のユーザー端末が無線LANのエリアに入ってからサービスの利用が開始されるまでの時間を、 接続・認証の手順を一括化するプロトコルの活用により、大幅に短縮させる技術。
- 無線LANに関する国際標準化を行うIEEE^{※1}802.11において、我が国企業から本技術を提案し、IEEE802.11ai タスクグループ(議長:(株)アライドテレシス開発センター 真野浩氏)を設置して標準化を推進中。

※1 The Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. 従来の方式 新しい方式 接続・認証手続が瞬時に完 サービスの利用開始まで 接続・認証手続が瞬時に 接続・認証手続中にサービ 了するため、結果的に多数 時間がかかるため、サービ 完了するため、立ち止ま スエリアから出てしまうと利 のユーザが同時に接続する スエリア内で立ち止まる必 ることなく、サービスエリア 用できない ことが可能 から出てしまう前に利用 要がある 所要時間※2 約3秒 所要時間※3 約0.01秒 立ち止まっての利用が基本 歩きながら、車で移動しながらの利用が可能



駅や観光施設、遊園地、スポーツ競技施設などの多数の人々が移動する場所における無線LANの利便性が向上。

- ※2 従来の方式としてWPA2方式を利用したときの接続・認証に要する平均時間(基地局の検索時間を含まない)
- ※3 無線LAN高速認証技術であるFILS(First Initial Link Setup)方式を利用したときの接続・認証に要する平均時間(基地局の検索時間を含まない)

